2020 年 5 月 12 日

シンママ大阪応援団コロナウィルス対策緊急提言

一般社団法人シンママ大阪応援団

私たちは 2015 年 5 月に立ち上げ、2018 年 3 月に一般社団法人化して、シングルマザーとその子どもたちを支援している団体です。具体的には、シングルマザーの相談にのり、必要な公的支援につなげるとともに、ママや子どもたちの居場所つくり、思い出に残るイベントの実施、食料品・日用品（通称スペシャルボックス）の月 1 回（毎月 25 日前後）送付などを行ってきました。5 月 12 日現在、支援している世帯は 63 世帯、166 人の母子およびひとり親世帯で育った女性たちです。
コロナウィルス感染拡大に伴い 2 月末に小中高の休校が決まったころから、母子家庭の生活がより一層苦しくなったという声が出始めました。そのため、臨時で 3 月 6 日に 15 世帯のスペシャルボックスを送りました（2020 年は 1 月 26 日(日)60 世帯、2 月 24 日(日)61 世帯、3 月 6 日(金)15 世帯、3 月 22 日(日)63 世帯、4 月 10 日(金)18 世帯、4 月 26 日(日)63 世帯、5 月 15 日(金)30 世帯の予定）。
また、4 月 26 日発送の通常のスペシャルボックスの中に、コロナウィルス感染拡大に伴う緊急アンケートのお願いを入れ、母子家庭がどのような生活状況でどのようなことに困っているかを明らかにすることとし、5 月 12 日現在で 17 人のママより回答がありました。また、スペシャルボックスを送付するとママたちから喜びの声が届きます。これらのママたちの声を下記にまとめました。

1.仕事について

　介護福祉士の資格を持ち、病院で働いているママ（30 歳台、子ども小学生 2 人）は「みなが医療崩壊とならぬよう働いているため、子どもの休校を理由に休みづらい。自分が熱が出たとき、一週間か解熱後三日後から勤務可能のため家にいるよう言われ、有給（8 日）を使って休んだ。シングルのため誰からも看病はされず、それでも子どものご飯と洗濯は毎日行い、大変だった」と語っています。
高校生の子どもを持つママは「コロナ以前と同様に何も変わらず仕事が続いているので、ソーシャルディスタンスをあまり取れていない職場で、いつ感染するか出勤するのが怖いです。仕事が減って収入がなくなるのもかなり怖いですが、コロナにかかって、倒れるよりはマシです。 死んでしまったら元も子もないですし。もし私が死んだら子どもはたった一人でどうやって生きていくのか・・。不安です。子どもはオンラインの授業が始まっていますが、格安 sim を入れて使っている、子どもの旧型の phone は壊れかけているということもあり、携帯の画面だと、説明書きが見えづらいとのことなのです。」
パート先が休業になったママ（40 歳台、子ども小学生 2 人）は「会社は平時でも有給すら私たちが言い出さないのをいいことに、知らん顔するような姿勢なので、休業補償もないのでは…」と心配しています。
中には退職を余儀なくされた人もあり、今は仕事をしていても、仕事がなくなるのではないかという不安を持ちながら働いているママも少なくありません。

また、生活保護で暮らしていても、「金額は生活できるギリギリの金額であり子供の学校が休校になって食費が増えても収入が増えない」など、子どもの食費のことで悩んでいるママたちもいます。
「仕事（お金）も大切ですが、育児と家事が増え毎日、鬱々と過ごしています。仕事があってとてもありがたいことなのですが、今は休みたいです。休みたいって、職場に言いたいです。でも、妊婦さんでも頑張っている方もいるのに、言えません。言えなくて、苦しいです」という訴えもありました。

◎仕事は大切ですが、仕事のためにママの心身が不調になったり、子どもが不安定になったりしては意味がありません。安心して休める、安心して働ける、また充分な賃金がもらえる労働環境の向上を求めます。

２．子どもたちについて

　子どもが学校に行けないこと、友達に会えないこと、運動ができないこと、コロナに対する不安などを抱え、不安定になっている子どもが多いようです。小学生でも、おねしょをするようになったという声もありました。
小学生の２人の子どもを持つママ（40 歳台）は「「学校に行きたい～」と言うようになりました。ストレスがたまってるので、ものすごくハイテンションで遊んでたかと思うと、兄弟げんか(かなり激しい)の繰り返しになってます。学校からの宿題も予習的なものになってきて、教えてやると親子げんか…お互いストレスになってます。子どもの勉強がどうなるのか、コロナが落ち着いても塾などにお金をかけてやれないので、とても不安です」
また、オンライン授業が始まったとしても、インターネット環境がない、タブレット等がない、子どもたちの勉強をみる時間がとれないなどの問題もあります。
受験生を持つママ（40 歳台）は、学校がずっと休みで、勉強が全然できていないため不安を感じています。そのため「中学３年、高校３年など大切な時期の子どもだけでも授業を受けられるようにしてほしい！」という声もありました。
　また、大学生の子どもを持つママ（30 歳台）は、子どもが大学が休校になっているものの「アルバイトにもまったく行けず、生活が厳しい。就活もできない状況で大変不安」という声が上がっています。
　学校の給食がないこともとても大きな問題です。

◎子どもたちが安心して学び続けれる環境、とにかく置いてきぼりになる子どもを作らないような教育環境を求めるとともに、子どもたちが運動したり、遊べる環境の確保も求めます。

３．今、助かっていることについて

　一番多かった声はスペシャルボックスの送付です。「夕方、スペシャルボックスが届きました。先日も緊急スペシャルボックスを頂き、本当に助かっています！最近、中２の息子が今まで以上に食べるようになり、１食にお茶碗３杯の時もあるので、お米が本当に助かります。 今は３食用意しないといけないので、お米の減りがものすごく早いです。」「食品は本当に助かります。野菜が高いので、お米や缶詰が嬉しくてたまりません。スーパーが時短になり、私の仕事後の時間帯では

品切れで困っていました」。このように、お金がない、時間がない、その両方の理由で、買いものに行くこともできないママたちにとって、自宅に届く食料品・日用品は、本当に助かるようです。「スペシャルボックスが届き今回も有り難く受け取らせてもらいました。スペシャルボックスが届くなり、毎回同様、娘の目はキラキラ！「宝箱届いたぁー」と大はしゃぎ★コロナの件で休み続きで学校が大好きな娘は学校へ行けないのと友達にも会えない、遊びにも行けないと ストレスが溜まっていたのも見てて凄い解っていました。でもスペシャルボックスを開ける時の娘の顔はニコニコで満面の笑みでした」と子どもたちにとっても嬉しいものであるようですし、スペシャルボックスが届いた時に「これで生きていける！」と子どもが言ったという声も届いています。
また、当団体やその他の支援団体とつながっていることで助かっているという声も多くありました。
　理解のある職場に感謝する声もあり、また国に対しても、児童手当、児童扶養手当、生活保護などの金銭的支援はシングルマザーの生活を確実に支えています。

　◎母子家庭の貧困は周知の事実ですが、さらにその深刻さは増しています。食うに困る状況の家庭がたくさんあること認識し、それへの支援策を求めます。

４．10 万円支給について

　嬉しいという声があるものの、遅い、足りないという声が多いいです。「非課税なので、はじめの 30 万だった方がありがたかった。さらに、一度限り 10 万支給されても、来月死ぬか、再来月死ぬかの違いでしかない。」「いち早く欲しいのと、10 万円だけでおわるのでなく毎月せめて半年ほどは支給してほしい」「支給が 6 月頃では遅すぎます。遅くとも 5 月中には欲しいです。児童扶養手当受給世帯は優先的にしてくれるそうですが、うちは死別で児童扶養手当をもらっていないひとり親のため、そこでも差をつけられることにがっかりしました。当初言っていた減収世帯への 30 万給付もやって欲しかったです」という声があがっています。

◎10 万円 1 回では全く足りません。死を実感しているママがいます。どこかで線を引くのではなく、すべての人へ支給額、支給回数を増やしてください。

5.　国の責任でやってほしい支援について

　死別のママは次のように書いてきました。「自治体によって独自の取り組みがされていますが、国で統一して動いてほしいです。ひとり親の支援、これも有給の有無や児童扶養手当の有無などの条件をつけずに一律でいくら出すとかしてほしいです。児童手当に 1 万円プラスなんて少なすぎます。ひとり親世帯の貧困率は 50%を超えていますし、シンママの多くは非正規での就労、つまりコロナの影響で収入が無くなったり減ったりのところが多いと思います。休園や休校で子どもたちのご飯や世話も大変です。緊急事態だからこそ社会的弱者に手厚く補償すべきです。ひとり親世帯が離別がほとんどなのはわかっていますが、死別だから(児童扶養手当を受けていないから)と線引されてはじかれることが多いです。死別ひとり親にももっと理解がほしいです。比べたくはないですが、死別のダメージの中生活していくのは並大抵のことではないですし、世間の風当たりも強いです。」。
また、その他にも下記のようにたくさんの声が上がっています。
食料の確保、水道、光熱費の免除、ローンなどの減額、猶予。

家賃補助や学費補助等、返済不要の支援。
オンラインで学習保障できるような環境など経済格差に左右されず享受できるサービス。
不織布マスク、体温計（電池）の支給。
子どもの検診や予防接種などを受けやすくして欲しい
在宅ワーク、時短勤務の推進。

◎以上、きめ細かくかつ総合的な支援を素早く困窮しているママや子どもたちに届けられるよう、地方自治体と連携しながら進めていただくことを強く要請いたします。